

2020年度 SYLLABUS 【博士後期課程】

授業科目名	総合演習VI 「会計と経営・経済」
担当教員名	金子輝雄・池田享誉
科目 の テ ー マ	<p>本総合演習VIは前半を金子、後半を池田の二名で担当する。</p> <p>(前半) 経済社会環境、企業経営および企業会計の関係について電力産業を例に取り上げる。企業会計は経済社会、企業経営の在り方に規定される一方で、逆に企業会計が企業や社会の現状を合理化するという関係を、電力産業とりわけ原発と会計の分析を通して考えていただきたいと思う。併せて、不正会計に端を発し、実質債務超過に至った、原子力関連企業である「東芝」の経営危機の要因についても分析していきたい。</p> <p>(後半) 経済的には資本主義、政治的には民主主義である現代社会は、「資本」とその増加分である「利益」の影響下におかれていると言っても過言ではない。この「資本」と「利益」を記録・計算するのが、「会計」である。本演習では、「会計」と「社会」とのかかりについて、とくに「会計と経営」、「会計と経済」に焦点をあてて議論し、それらが社会に及ぼしている影響について考察する。</p>
科目 内 容 ・ 方 法 等	<p>(前半) 電力産業経営分析研究会編『電力産業の経営分析』同文館出版社 2018年を輪読する予定。本書では、日本における原子力発電の状況、廃炉の会計、電力料金における総括原価方式、原発に係る税制、日本の再処理の会計、イギリス・フランス・ドイツに再処理の実態と会計、電力の自由化がもたらすもの等、一見、関係ないように思える原発問題と会計問題・経営問題が実は互いに密接にかかわっているという状況が明かされている。</p> <p>(後半) まず、「資本」とその増加分である「利益」を記録・計算している「複式簿記」の構造と役割を確認したうえで、「財務会計と管理会計」が「経営と経済」に及ぼしている影響（例えば、税、配当、賞与、給与、投資・与信等経済的意思決定、その他経営上の様々な意思決定への情報提供等）について議論する。それらの議論を通じて、資本主義と民主主義の関わりについての理解を深めていく。</p>